

G サイエンス学術会議 2023 の開催について

令和 5 年 2 月 22 日
日本学術会議副会長
（国際活動担当）

Gサイエンス学術会議は、平成 17 年以降、G7のサミット参加国のナショナルアカデミーがG7サミットに向けて科学的な政策提言を行う目的で共同声明を取りまとめている国際会議で、日本からは日本学術会議が参加しています。本年は、G7の議長国が日本であることから、日本学術会議が G サイエンス学術会議 2023 を以下のとおり主催します。

記

<Gサイエンス学術会議 2023>

- 1 日 時 3月7日（火）午前10時00分～午後4時15分（日本時間）
- 2 会 場 日本学術会議講堂・オンライン ※一般公開予定
- 3 主 催 日本学術会議
- 4 参加者 G7各国ナショナルアカデミー会長等、一般参加者
- 5 プログラム 別紙参照
- 6 Gサイエンス学術会議 2023 共同声明のテーマ（予定）
 - ・ Addressing systemic risks in a changing climate: Science and technology in support of cross-sectoral decision-making
（気候変化に伴うシステミックリスクに対応する分野横断的意思決定を支える科学技術^{（仮訳）}）
 - ・ Delivering better health and well-being of older people through wisdom sharing and innovation
（知見の共有とイノベーションによる高齢者の健康増進とより良いウェルビーイングの実現^{（仮訳）}）
 - ・ Restoration and recovery of the ocean and its biodiversity
（海洋と生物多様性の再生・回復^{（仮訳）}）

※Gサイエンス学術会議 2023 共同声明の公表につきましては、別途3月1日（水）頃にお知らせいたします。

※参加希望の方は、3月3日（金）正午までに以下 URL よりご登録ください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0215.html>

以 上

Gサイエンス 学術会議2023 一般公開 国際シンポジウム



開催概要

- ◆ 会期: **2023年3月7日(火)**
- ◆ 開催形式: **日本学術会議講堂**及び**YouTube**のハイブリット形式
- ◆ 言語: 日本語・英語(同時通訳) ◆ 定員: 50名(現地) ◆ 参加費: 無

プログラム

時 間	内 容	登壇者
10:00-10:30	開会挨拶	● 梶田 隆章(日本学術会議会長) ● 高村 ゆかり(日本学術会議副会長)
10:30-11:30	基調講演・ディスカッション Session 1: 気候変動	● Gサイエンス学術会議2023「気候変動」執筆対応小分科会 ● ミシェル・トランブレ(カナダ王立協会科学アカデミー会長) ● ロビン・グライムス(英国王立協会外務担当副会長)
12:30-13:30	基調講演・ディスカッション Session 2: ヘルス	● Gサイエンス学術会議2023「ヘルス」執筆対応小分科会 ● アラン・フィッシャー(フランス科学アカデミー会長) ● マリア・クリスティーナ・マルクツォ(イタリア・リンツェイ国立アカデミー国際担当役員)
13:30-14:30	基調講演・ディスカッション Session 3: 海洋	● Gサイエンス学術会議2023「海洋」執筆対応小分科会 ● ジェラルド・ハウグ(ドイツ科学アカデミー・レオポルディーナ会長) ● マルシア・マクナット(全米科学アカデミー会長)
15:00-16:00	ディスカッション Session 4: 社会と科学	● 梶田 隆章 ● ナリンダー・クマール・メヘラ(インド科学アカデミー副会長) ● ピーター・グルックマン(国際学術会議・会長) ● フィリップ・ロッシ(グローバルヤングアカデミー理事) ● マリア・クリスティーナ・マルクツォ
16:00-16:15	閉会挨拶	● 梶田 隆章

申込方法

- ◆ 日本学術会議講堂での傍聴をご希望の場合※定員: 50名(現地)
https://form.cao.go.jp/scj/en_opinion-0011.html



- ◆ YouTubeでの傍聴をご希望の場合
https://form.cao.go.jp/scj/en_opinion-0012.html



受付期間: 2023年2月10日(金)~3月1日(水) 正午

お問い合わせ

日本学術会議事務局
TEL: 03-3403-1949

参事官(国際業務担当) 付 長谷川・幡手
住所: 東京都港区六本木7-22-34

主 催 日本学術会議